

よろずは

平成二八年
五月号

万葉歌と季節の植物③

物思はず 道行く行くも 青山を ぶり放け見れば つつ
じ花 香少女 桜花 栄少女 汝をそも われに寄すとふ
われをもそ 汝に寄すとふ… (巻十三・三三〇五/作者未詳)

物思いもなく道を行き行き、青山をふり仰いで見ると、
つつじ花が美しい。その花のように匂わしい少女よ。桜
花が美しい。その花のように栄える少女よ。そんなに美
しいお前をこそ、お前に寄せてうわさする…

春本番を迎え、さまざまな花が咲き誇る季節になりました。万
葉人たちも春の季節が大好きで、種々の花を歌に詠んでいます。
その中でも、今回の歌は女性の美しさを花にたとえた歌です。

『万葉集』をはじめとする古代日本の文献では、笑うことを「咲」
の字で表記します。「咲」の字は「笑」の字の古体で意味は同じで
すが、多く「咲」の字が用いられています。たとえば、東国・勝鹿
の地の女性である真間手児名に対して、「…如花 咲而立有者…」
(巻九・二八〇七/高橋虫麻呂歌集)と詠まれているように、花が咲く
様子と女性の微笑む姿が重ねられ、女性の美しさを示している
と考えられる表現があります。たしかに、花が風で揺れている姿を
じつと見ていると、なんだか笑っているような気がしてきます。
皆さんも当館の万葉庭園で、素敵なお花を探してみてください。

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みした
ものです。

※「万葉歌と季節の植物」では、万葉文化館の万葉庭園にある植物を中心
に、季節の万葉歌をご紹介します。

【躑躅・つつじ】

やまつつじ(上)

どうだんつつじ(下・右)

※あしびのような小さ
い花を付けます。

ひらどつつじ(下・左)



【万葉古代学係】